

農業委員会だより

# 土岐市の農業



編集/発行 土岐市農業委員会

農地を貸したい・借りたいかたをお手伝いします!!

## 農地中間管理事業を活用しましょう!

- ・対象農地は、農業振興地域内の農地となりますが利用が困難な耕作放棄地や受け手が見込まれない農地は借受け致しません。
- ・貸付期間は、原則10年間以上です。
- ・農地の貸付先は(一社)岐阜県農畜産公社へ一任いただきます。
- ・公社が借受けてから2年を経過しても貸付先が決定しない場合には、契約を解除する場合がございます。

農業委員会の体制が変わります。

農業委員会法の改正により農業委員会が8月から新体制として整い、土岐市は現在二十名の農業委員は14名、新たに設置される農地利用最適化推進委員3名の体制に変更となりますが、農業委員会の活動である農地転用に係る許認可事務や遊休農地対策、農地の利用集積の活動が主な取り組みとなります。今後とも皆さんのご支援ご協力をお願い申し上げます。

## H28年12月~H29年3月活動報告

平成28年

- 11/15 農業委員会だより発行
- 11/22 農地転用現地調査
- 11/25 第11回農業委員会総会
- 12/20 農地転用現地調査
- 12/22 第12回農業委員会総会

平成29年

- 1/19 農業委員・農地利用最適化推進委員研修会(美濃加茂市)
- 1/24 農地転用現地調査
- 1/27 第1回農業委員会総会
- 2/8~ 農事改良組合長会議
- 2/21 農地転用現地調査
- 2/24 第2回農業委員会総会
- 2/28 農業普及活動発表会(多治見市)
- 3/17 県農業会議臨時総会(岐阜市)
- 3/22 農地転用現地調査
- 3/24 第3回農業委員会総会

地元農家のご紹介(地産地消の更なる展開)

ととき 直哉さん(42才) 曾木地区 ■トマト農家

多治見市笠原町出身の土岐さんは曾木町でトマト栽培を5年前に始められた。標高460mの高所に位置する曾木町は夏秋トマト栽培の好適地で毎年6月下旬から十一月中旬に収穫を行います。土岐さんは「根を丈夫にすること」を常に考え、トマト本来の力を引き出させるように工夫され、農薬を減らすことに気を配り、今以上においしいトマトをつくりたいと頑張ってみえます。現在は、5千本の苗を育ててみました。今の目標は、「経営の安定のため、タラノメ、しいたけなどの新規品目の導入を行いたい。」とおっしゃいました。土岐さんの新鮮で美味しいトマトを食卓へどうぞ。



●ご存知ですか?農地の売買や転用には、許可が必要です。

農地を耕作するために貸借・売買する場合は「利用権設定」「農地法3条の許可」、農地を宅地等に転用したり、転用するために所有権移転等をする場合には、「農地法4条または5条の許可」が必要です。

農業委員の  
雑記・雑感

家庭菜園のすすめ

林 義雄

春の息吹を体いっぱいを感じる今日この頃、農業委員として、毎月一回の総会と協議会に出席し申請事項を討議し、議決する中で、農地法第5条の許可申請が多く見られ、いかに農地が宅地に転用されている事が分かります。特に土岐津・泉地区の区画されている箇所が多く小さな畑が失われています。区画整理地内は市街化されています。当然ですが、手入れのなされていない場所も数多くあり、これは高齢化による担い手のいない農地が至るところにあります。身近にも菜園に適した土地が多くあるように見受けられます。

若い人達や農業経験のない方々、家庭菜園や、おたのしみ農園で野菜作りを始めてみませんか。家庭菜園をする事で、どのような思いで農家の人達が野菜を作っているのか、野菜作りの大変さと同時に楽しさ、収穫の喜び並びに野菜のうまさ、おいしさを体じゅうで感じる事が出来ます。また、家族みんなでやればいいコミュニケーションや適度な運動にもなり、食費の削減にも繋がるでしょう。家庭菜園は自分で作る為、無農薬野菜を作り食べることが出来ます。どこで何を使って育てているのか分からない野菜よりも自分で作った野菜の方が安心です。自分や家族の健康を考える為にも、無農薬野菜を作りましょう。お手伝いをお願いします。家庭菜園は日々の世話が重要で、葉や果実がきちんと育っているかどうか、虫がついていないかないかどうか、常にチェックが必要となり、異変に気付いた時には直ぐに適切な処置をしなければなりません。ある程度の知識と根気が必要です。楽しく始める為にもまず育てやすい野菜から作るというでしょう。近所には野菜作りの名人や世話好きな方々が見えますから、野菜作りや土いじりに挑戦して見て下さい。ご支援いたします。

最近、高齢者による交通事故、アクセルの踏み間違い、逆走、判断ミス等があらちちらで多発しています。私自身も高齢者のひとりとして大変不安であり心配でなりません。現在、自分自身は大丈夫だと思っておりますが、深刻な事態になった時は速やかに運転をやめ免許証の返納を決めています。皆様も交通事故を起こさない、遭わないように気を付けましょう。

無題

田中 成典

農業委員となり2年半が過ぎました。この間に太陽光パネルへの転用申請が目につきましたのでチェックしたところ、四十一件の申請が有り約34,300㎡の農地が転用となりました。これは東京ドームの広さの7割強にあたります。又、昨年9月に行った農地利用状況調査においても耕作放棄地が年々増えており、その管理に問題も出てきております。泉町の大富地区においても数年前までは18戸(ほとんど兼業農家)で米をつくっておられました。現在では11戸に減少しております。高齢化に伴い、段差のある田への機械の移動が危なくなってきたとか、体力的に難しくなってきたとか、機械が古くなってきたが後継ぎがない為、高額な新しい機械を購入してまでの継続は難しいとか種々な理由があると思います。



泉町大富区内にある仲森池

泉小学校の近くに仲森池(農業用水及び防火用水)があり、その周囲は仲森公園として恰好の散歩コースになっております。数年前からその池に菱(ヒシ)が蔓延し一時は池全体を覆うほどになっており、花が咲き実をつける八、九月は水田に水が必要で池を空にする事ができず、また、除草剤を使用することも出来ず、その駆除に頭を悩ませております。当面は水を落とす十一月より水のない場所を取り除いていますが、多少は少なくなつて来ていますが、種まきで取ることが出来ず翌年又、出てくるのが現状です。湖面の景観も失われ、流れ出した菱(ヒシ)の田への影響も危惧されます。

農業と関係(1)

安藤 慶和

農業委員会法の改正に伴い、土岐市の農業委員会の体制が今年8月から変わります。今後の活動が、時代に即したものであることが期待されています。土岐市の中でも地区により農業に対する関心、日常生活と農業との関わり、農業に関連する地域の活動など大きな開きがあるのを感じます。これも当然のことで、それらは地域条件や個人の価値観・嗜好に拠るところが大きく影響し、已むを得ないことなのでしょう。

自分の町を覗いても、圃場整備された農業振興地域や利排水が確保された区画整理地内には、水稲を中心に継続意欲のある農家さんが散見されます。一方、不整形地や造成後の残地などでも、家庭菜園や自己消費が主目的の多品種少収穫を目指し楽しんでおられる方々も見受けられます。どちらも、農業や農業を支える環境に充分寄り添っていると考えられますし、小さな積み重ねが貴重であることも、しっかりと認識しておく必要があります。

業に従事する時間が極めて少ない(具体的に言えば、一回三十分程度の水田の水管理も含め、年間七十日程度)自分が、平成二十六年8月から農業委員となり、それなりに役目を果たしてきたつもりではいりましたが、やはり農業委員は専業農家や一種兼業農家の中の主たる構成員が農家を代表して活躍していただくことが望ましいと痛感しています。家業が農業であったり、選んだ仕事は農業であったり、選んだ人たちが、農業の指導者になるべきだと思われまます。また、市内における農業従事者の居住地区の偏りを極力反映した農業委員の選出が望ましいとも考えます。

組合せやアレンジ・リメイクを試みて頂けたらと思うのです。私も今春で現役を退き、完全に年金受給者の一年生になります。水稲は体力とも相談しながらできるだけ続け、畑作は自家消費分と⑤の『プレゼント農業』を目指して行こうと思っています。

農業委員を受けて

水野 光博

任期も残り少なくなりました。責任ある重要な務めだと痛感しているところです。農業委員を受諾し不安の中、先輩委員の指導をい

ただき市内各地域から提出される農地法による許可申請・利用計画変更申請に基づき近隣農地に対し耕作・水路に支障はないか等の現地確認調査。担当地域からの申請は地元委員の意見が反映されるため申請者と面談し申請内容等を確認、委員会へ報告を行ない、責任重大だなぁと何時も思っています。来しました。農業委員を受け痛感した事は申請地の確認、地域の農地利用状況調査で耕作放棄地が多い事と太陽光パネルの設置件数が多い申請される事ですが、最近、仕事で可児・多治見・瑞浪方面へ行

無題

佐分利 秀行

くことが多く耕地整理された素晴らしい水田が目につき羨ましく思います。でも兼業農家が多くの耕作は、JA・営農組合に委託している方が多いと聞きました。どの地域も高齢化が進み耕作以外の維持管理が大変だと思えます。土岐市の現状も少子高齢化が進み食べ物も変わりつつ外食産業が業績を伸ばす中、後継者も少なく、近年は山間部以外でもイノシシ等の被害も多くその対応が日々問われます。このままでは、年々耕作放棄地が増えるのではないかと心配の限りです。その反面、家庭菜園が普及しているのも良い事ではないかと思えます。

改正農業委員会法が昨年4月1日に施行され、土岐市農業委員会も本年8月に新制度により改選されることとなります。農地利用最適化推進委員3名と農業委員14名で、現委員より3名減となります。改正法では農業委員及び農地利用最適化推進委員の必須業務として『農地利用の最適化の推進の適正かつ円滑な推進を行う』ことだと聞きますが、良くわかりませ

ん。今年一月、美濃加茂市で開催された研修会で、すかいらーくフードサイエンス研究所・理事長入澤肇氏の講演の中で、日本の農地は法律により守られて来た、という話がありました。農地も様々で、北海道のような広大な農地、八郎潟のような干拓地、平野部の広々とした農地、山間部の狭くて段々の農地、条件が全く違います。自分の家の事を思い出してみると、小学校低学年の頃は全部手作業でした。田んぼは、ビッチェで耕し、苗代で苗を作り手で植えました。鎌で稲刈りをし、はぎに掛けました。ガーチャンガーチャンから脱穀機に代り、耕運機があつという間にトラクターに代り、田植え機も入って来ました。農機具一式が数百万円の時代になりました。四反あつた水田も山あい日当たりが悪く水の細い所は荒れたり道路に掛かったりで一反少々となり、農地改良も行われましたが区画が小さく3枚で一反二畝、柿野のなかでも一番条件の悪い所です。先祖からいただいたこの農地、あと十年ちよつとで八十歳を迎え、女房との二人暮らし、息子が帰って来る当てもありません。一体どうやって守って行けば良いのか？農業は嫌いじゃないし、自分が元氣

な内は頑張ろうと思います。

無題

梅村 徳幸

農業委員を引き受けて六年目になります。この六年間に色々な地域、施設を見て回りましたが、どの地域にも農業離れの多い休耕田が目立ちます。昨年まで水田で稲が育っていた所が、今は一面ソーラーパネルで光っているなど、もう当たり前の昨今です。そればかりか後継者不足又、高齢化社会の到来で耕作放棄地が増える事が危惧されます。この問題は私たちの地域にも当てはまり、今のところはそれぞれ個人が自分の持田を管理していますが、出来ないところも有りそんな時に平成二六年に曾木に農事組合法人を立ち上げないかという話しが持ち上り、個人個人で田んぼを作っている人達に声をかけると五〇名の人達が組合員として入っていただけました。立ち上げ早々に県・市・農協職員の方々と運営方法等細かい事柄を決めるための会合を何度も何回も持ち話し合いました。そうすると組合の名前が必要との事で曾木町にある曾良山の麓の里山と言う意味で『曾良の里』と名称を決定し、

同年十二月の終わり頃、法人設立総会を開き、組合員の承認を得て稲作を経営主体に平成二七年の春から苗作りから始めました。手探り状態の中での米作り、農業機械も組合員個人の物を借りて動き出しました。秋の収穫までの草刈・水の管理は大変でしたが、秋の収穫時は大きな喜びとなり収穫した米は委託者や各方面の人達に購入いただいたり、地元で食事を出している施設やイベント会場で販売するなど、曾良の里の米を食べて貰いました。

そして食べた人達の意見や「お米がおいしい」の声を多く聞き、今後の励みにしています。こうした取組みで少しでも耕作放棄地が無くなる様に又、私達が行っている稲作農業に賛同くださる若い人達が増える事を願いつつ、自分達が生まれた故郷がいつまでも安全で健康な「米」として確保ができればに安全・安心な米作りに少しでも若い人が目を向けて貰えることを願っております。

農業は楽しいと思つて貰える様に仲間と力を合わせていきたいと思つている七〇才ではありますが、今から専業農業一年生として微力ではありますが「曾良の里」に協力して行きたいと思う日々です。

収入保険制度の導入

自由な経営判断に基づき経営の発展に取り組む農業経営者を育成する目的から平成30年に導入される予定で、従来の米・麦の農作物共済制度とこの収入保険制度のどちらか一方を選択加入することができるようになりました、ただし収入保険制度への加入要件には、平成30年の2～3月に平成29年分の農業所得について青色申告を行う必要がありますのでご注意ください。

- ▶ 青色申告を行っている農業者(個人・法人)が対象です
- ▶ 収入減だけでなく、価格低下なども補填の対象です
- ▶ 品目ごとでなく、経営全体について収入減の一定割合を補填します

担当窓口：東海農政局 岐阜支局 電話058-271-4044

この「土岐市の農業」は、土岐市ホームページでご覧いただけます。

<http://www.city.toki.lg.jp/shisei/soshiki/kezaikankyo/nogyo/>

全国の農地情報

インターネットでみられます

農地に関する地図の情報について、農地法に基づきインターネット上で公表しています。

【全国農地ナビ】 <https://www.ali-s-ac.jp/>